富士通テンプレートの基本構造と作成ルール

基本タグ構造

<XTML>

<HEAD TEMPLATENAME‥‥ファイル名を設定

TITLE‥‥”EDR”で始め、タイトルの後に数字二桁のバージョン番号を入れる>

★電子カルテのブラウザにはこのTITLEが表示される。

　<INDEX NO="0" CATEGORY="B">‥‥カテゴリはOでなくB。NOが先にくる。

</HEAD>

<BODY>

<TEMPLATENAME‥‥ファイル名を設定

<TITLE‥‥”EDR”で始め、タイトルの後に数字二桁のバージョン番号を入れる>

<FORM NAME‥‥定型"Form1">

<TITLE‥‥テンプレートの本来のタイトルを入れる>

★出力ファイルの2行目の最初には、このTITLEが入る。

<TAB NAME‥‥定型"TAB1"　ACTIVEPAGE="2"　PAGESPERROW="3">

<PAGE TITLE>

<GROUP>

</GROUP>

</PAGE>

</TAB>

</FORM>

<ORIGINAL>

<!--

\*Form1

-->

</ORIGINAL>

</BODY>

</XTML>

セクション部品

FORM

大きさの最大値は下記。

LEFT="0" TOP="1200" WIDTH="16830" HEIGHT="13500"

GROUP

NAMEとELEMENTはGP01から99まで。

TITLEに項目名を入れる。

入力部品タグ　Ver2

TEXTBOX

NAME、ELEMENTにはTB01から99まで。NAMEとELEMENTが同じであれば、汎用項目。バイオバンク共通問診票のみNAMEに全角項目名を使用する。

LISTBOX

NAME、ELEMENTにはLB01から99まで。NAMEとELEMENTが同じであれば、汎用項目。バイオバンク共通問診票のみNAMEに全角項目名を使用する。

COMBOBOX

NAME、ELEMENTにはCB01から99まで。NAMEとELEMENTが同じであれば、汎用項目。バイオバンク共通問診票のみNAMEに全角項目名を使用する。

LABEL

入力部品と対になるLABELは、NAMEは汎用タグ名の前にL-をつける。例"L-TB01"

独立した項目の場合は、LL01から99まで。TITLEに表示内容を入れる。

プロパティ共通

* NAMEにはタグの名前を入れる。これが生成されたXML文書（FACT）のHIDEセクションに含まれてくる。
* ELEMENTは必須ではなさそうだが、今回はTB01やLB01などのタグIDを入れる事にする。
* TITLEは、LABELやLISTBOXOPTION、COMBOBOXOPTIONにおいて、表示させるテキスト情報を入れる。
* VALUEは、LISTBOXOPTIONやCOMBOBOXOPTIONにおいて、選択結果値を入れる。
* FORECOLORには文字色を入れる。★要確認
* BACKCOLORにはエリアの背景色を入れる。
* FONTSIZEは本プロジェクトでは９に統一している。
* FONTBOLDは本プロジェクトでは使用しない。
* ALIGNMENTは、フィールド内での文字配置を指定する。LEFT,CENTER,RIGHTなど。
* DATATYPEは、数値型としたい場合は” NUMERIC”を入れる。空白の場合はテキスト扱いとなる。
* IMEMODEは、入力モードを指定する。02で半角、04で全角ひらがなとなる。
* BEFORESTRINGにはブラウザ上の入力値手前に表示させる内容を入れる。末尾に半角スペースを挿入する。それ以前のスペースは全角とすること。基本的にはNAMEの末尾に半角スペースを入れたものになる。

★内容がなく非表示の場合XML文書（FACT）には表示されないが、そのような場合であっても、富士通DWHではこの内容を検索したcsvの項目列に表示する。故にNAMEと同じ内容とすることが望ましい。

* AFTERSTRINGにはブラウザ上の入力値の後に表示させる内容を入れる。
* MAXVALUEは数値の場合の最大値を指定する。
* MINVALUEは数値の場合の最小値を指定する。
* TYPEは、COMBOBOXのサブタイプを指定する。DROPDOWNLIST SIMPLE COMBOBOXの３つから選ぶ。
* SKIPには、必須入力にしたい場合にFalseをセットする。必須でない場合はTrueをセットする。空白にしていると、テンプレートビルダーがFalseにしてしまう。
* OUTPUTはブラウザでの表示位置を指定する。-5は３列割り付け、0は非表示、1は前の表示に続けて表示、２～7はブラウザのタブ位置であるが、２の幅が狭く３の幅が極端に広いため、最も左端の２，中央の４を使用することが多い。  
  自動生成ではOUTPUTは２に固定する。
* LEFT、TOP、WIDTH、HEIGHTは部品の位置と大きさを指定する。
* TABINDEXはタブ順。必ず設定すること。
* DECIMALPLACESは小数点以下の桁数を指定する。
* COMMENTは、LISTBOXやCOMBOBOXをテンプレートビルダーで保存すると追加されるが、空白でもかまわない。
* OUTFORECOLORの意義は未確認。
* OUTBRは、ブラウザ上での改行指定。AFTERをセットするとその内容を表示したあと改行する。自動生成ではAFTERに固定する。
* MULTIPLEは、LISTBOXにおいて複数選択を可能とする場合にTrueをセットする。
* ACTIVEPAGE、PAGESPERROWは現在不使用。
* SELECTEDは、LISTBOXOPTOINまたは一部のCOMBOBOXOPTIONで使用でき、選択肢をあらかじめ選択状態にする。
* COMMANDBUTTONタグのSUBMITFUNCTIONにSUBMITをセットすると、入力データを保存する。
* COMMANDBUTTONタグのWINDOWFUNCTIONにCLOSEをセットすると、ウィンドウを閉じる。

テストで解ったこと

・EDRで使うデータは、TL01のFACTデータなので、テンプレート側でいろんな属性を指定しても、落ちてこないものが多い。

・文書にはDisplayセクションとHideセクションがある。データを取るのはHideセクションからとする。

・TEXTBOXにコメントを設定しても、ブラウザには落ちてこない。

・LISTBOXはHIDE領域に候補がすべて落ちてくる。

・LISTBOXの選択肢に" "（半角空白）を作っても、テンプレート上では選択できない。TITLEもできてこない。TITLEを”（空白)”、VALUEを""にしても" "にしてもVALUEができてこない。VALUEでなくTITLEからデータを取る方が良いのではないか。

・COMBOBOXは複数選択できないが、フリー入力ができる。こちらは選択肢はブラウザに落ちてこず、出力結果はTEXTBOXと区別がつかない。ドロップダウンリストと、フリー入力を許すドロップダウンコンボを選べる。

・CHECKBOXは、TEXTBOXと書式は同じだが、TYPEが"Selected"となる。

<CONTROL NAME="CK01" TYPE="Selected">TRUE</CONTROL>

決めたこと

・バイオバンク共通問診票については、タグ名も日本語を含む固有のものとしてきちんとつくる。

・汎用のテンプレートは、テンプレートのタイトル先頭に「EDR」をつけたもののみ取り込むことにする。タグ名称はTB01-99、LB01-99、CB01-99という名付けにする。

・使用する入力用部品は、TEXTBOX、LISTBOX、COMBOBOXのみとする。ラジオボタン、チェックボックスは使わない。できるだけ単一選択も複数選択も選べるLISTBOXを使う。フリー入力を併用したい場合はCOMBOBOXを使っても良いが、意図通りに利用してくれないと思われるのであまり推奨しない。COMBOBOXは展開しないと候補が見えないが、LISTBOXは最初から見えている点で優れている。COMBOBOXの利点は、画面上でスペースを取らない点のみである。

・テンプレートビルダーにはタブ順・展開順・手前表示などの設定があるが、Excel定義表から作る場合、原則として考慮しない。タブ順・展開順は行の記述順番。あとから記述されたオブジェクトが手前に表示される。

Excel定義表のルール

* A列（問診票ファイル名）2行目

xxxx.Xtmで終わること。ピリオドの前は全角可。2行目にはA列、B列のみ記載し、他の列は空白とする。

* B列（問診票タイトル）2行目　  
  EDRで始まり、２桁の半角数字で終わる。全角可。2行目にはA列、B列のみ記載し、他の列は空白とする。
* C列（グループ名）  
  全角可。この列にグループ名を記載する場合は、他の列は空白とする。定義表の最終行には「終了」のみ記載する。
* I列（項目種別）  
  「文字表示」「普通入力」「択一」「複数選択」のいずれかを入力する。それぞれLABEL,TEXTBOX,LISTBOXに対応。
* D列（項目タイトル）  
  その項目の名称。E列と同じ場合が多い。Ｉ列が「文字表示」以外の場合は必須。
* E列（接頭語）  
  ブラウザ上で、入力データの前に表示する文字列。Ｄ列と同じ場合が多い。
* F列（初期値）  
  データ入力フィールドに最初に設定しておく文字列。I列が「文字表示」の場合は必須。
* Ｇ列（接尾語）  
  ブラウザ上で、入力データの後に表示する文字列。
* H列（必須の有無）  
  該当フィールドへの入力を必須にする場合は「必須」と記述。
* J列（入力形式）  
  データタイプを「文字列」「整数」「小数n」で指定。nに小数点以下の桁数を指定。
* Ｋ列（文字種）  
  I列が「普通入力」の場合に「半角」「全角」を指定可能。
* L列（選択肢）  
  全角の"｜"で区切って選択肢を並べる。最後尾にも"｜"をつける。
* M列（最大値）  
  数値の場合の最大値を指定する。
* N列（最小値）  
  数値の場合の最小値を指定する。
* O列（表示サイズ）  
  Ｉ列が「文字表示」以外の場合に入力域の横幅を、半角換算での文字数で指定する。

Excel定義表で作るテンプレートの制限事項

* 生成する部品はTEXTBOXとLISTBOXのみです。COMBOBOX、CHECKBOX、RADIOBUTTONは生成しませんが、実用上問題はありません。
* 現状では1画面に部品を展開します。タブやページ分けには未対応です。
* グループの大きさは今のところ、管理者がワークシート上にて手動で設定する必要があります。

今後想定するワークフロー

1)ユーザーがExcel定義表をアップロードする

2)Web問診票システムがxtmファイルを作る。

3)ユーザーがxtmファイルをダウンロードして、部品の配置やブラウザ上の表示位置をテンプレートビルダーで定義する。

4)完成したxtmファイルをオペレーターが電子カルテに登録する。

5)予約センター職員が再診予約を取り、問診票を起こす。

6)再診予約と問診票１版ができると、富士通からif1ファイルができ、問診票サーバーに渡される。

7)問診票が記入されると、データが富士通電子カルテに渡される。

8)富士通電子カルテに問診票情報が登録される。

以上